

良きワインは心を楽しめます

学長



すずき こうじ
鈴木 康司

卒業生諸君、おめでとつ。四年間の中央大学における学業を終えて社会に旅立つ日を迎えた君たちの胸中には、おそらくいろいろな思いが渦巻いていることでしょう。

超氷河期と言われた昨年に比べれば多少は好転したとはいえ、就職難であることに変わりない今年ではあります。諸君はそれぞれ、ご自分の将来を見据えつつ、ベストを尽くして、進路を捜し求めたものと思います。そして、さまざまな経験や苦労を経た君たちは、間違いなく一回り成長したのです。君たちの前途にはそれこそ多くの事柄が待ちうけています。しかし、この一年の経験を生かし、周囲の人々から示された好意や、家族のかたがたの暖かい眼差しを思い起こせば、どのような障害にぶつかろうと力が湧いてくるはず

それにしても、諸君をこれまで慈しみ、育てて下さった「両親には、

真つ先に感謝を捧げて下さい。私にもとづくに社会人として一家を成した子供が二人ありますが、それぞれ学業を終えて社会に巣立つた時には、親としてなんととも言えない感慨を持ったものです。これで親の責任もある程度は果たしたぞという気持ちと同時に、社会の荒波にもまれる子供の前途を考えると、まだまだ見守ってやらないとならないだろうとの思いが交錯しておりました。諸君のご両親も、おそらくは同じ思いでいらつしやることでしょう。君たちの

成り難し」*“Ars longa, vita brevis.”*

という格言を送りました。今年は「良きワインは心を楽しめます」*“Le bon vin réjouit le cœur.”*というフランス

の言葉を送りたいと思います。良いワインなら心を楽しませるに決まっている、何をつまらんこと言っているのだとは誰しも思うかもしれませんが、これには、もう少し付け足しがあります。もともとこれは、旧約聖書外典の、集会の書と呼ばれるものにある言葉で、正しくは「ワインと音楽は人の心を楽しませる」という文言でした。そして、実はそのあとに、もっと重要な言葉が来ます。

それは「この二つよりも、叡智への愛こそは遙かに」というものです。旧約聖書の外伝にあるのですから、キリストの誕生より前の話で、ワインと音楽の次にはぜひいぶん固い話だと言えるのかもしれない。しかし、古代の遊牧民の生活を偲んでみると、ギリシア・ローマの昔からワインは生活必需品であり、音楽もまた娯楽のきわめて少ない時代にあって心を楽しみます大きな要素だったのでしよう。良いワインであればあるほど人々の心は楽しみ、音楽がそれに伴えば更に一層楽しみは大きくなります。だが、それにも増して

叡智への愛こそは人の世に欠かすことのできない大きな存在であること

を、今より遙かに生きるための条件が過酷な境遇にあった人々に、理解されていたことは特筆されてよいでしょう。いや、むしろ、叡智への愛がなければ厳しい砂漠の遊牧民としての生活をまっとうできないことが判っていたからこそ、このような表現になったのかも知れません。

己の可能性を求めて、これから社会に巣立つて行かれる諸君にとつても、この言葉はきつと役に立つのではないでしょう。人生には超えて行かなければならない困難や、障害が幾つもあり現れます。それらを解決し、充実した日々を送るにはどうしても叡智を身につけ、活用して行かなければなりません。叡智への愛が必要になるのです。この愛を胸に、社会の一員として堂々と過ごしてもらいたい。そして、勿論、良きワインや音楽を楽しむことを忘れずに。かく言つ私も何十年にわたつて、良きワインと音楽は人様に劣らず味わつてきました。

どうか、卒業生諸君、二度とない人生を、積極的に、しかし、心のゆとりを持って、楽しく生きて下さい。